



京ヶ峰の四季

第42号

2013年春号



春の風をゆるやかに感じ、過ごしやすい季節がやってまいりました。長年にわたって私たちの目を楽ませてくれた旧本館横の桜の姿は新本館の完成に伴い縮小化こそされてしまいましたが、今年は新本館を背景とした桜の光景を新たに楽しむことができました。

今年が開院75周年、当院が京ヶ峰の地に移転して45年という節目の年であります。この年月の流れの中で、病院内の風景もその時代に応じた変化を遂げています。

昨年には新本館の竣工でハード面の大きな変化がありました。そして今年には日本医療機能評価機構の認定更新の年にあたり、ソフト面での充実を図りたいと考えております。しかし医療界は相変わらず医師不足や医療費の抑制など、厳しい状態が続いています。また精神科医療を取り巻く環境も刻々と変化を遂げ、その場凌ぎの国の方針や政策に翻弄され、現場は疲弊しきっています。一昔前は患者さんと医療者の間に流れる時間もとても穏やかなものであった気がします。患者さんの抱える問題と一緒に悩み、考え、解決をするといった患者さんと共に歩む姿勢がありました。一方、現在では次々に課せられる事務的な処理などに忙殺され、患者さんとの関係性が希薄になってしまうことが残念でなりません。もちろん医療の標準化を図るためにもやるべきことはしっかりこなすべきです。しかし、今一度初心に立ち戻り、当院の基本理念である「一人ひとりの患者さまの幸せのために」本当に必要なことは何か、職員一人ひとりが常に考え、穏やかな時間を取り戻すべく邁進したいと思います。当院を訪れたすべての人の笑顔のために、元気や癒しを感じられる独自の時間や空気を作り上げて行きたいと願っています。

京ヶ峰岡田病院
副院長 岡田京子

基本理念

一人ひとりの患者さまの幸せのために
～ For the Patients ～



精神医療保健福祉情報

「働きたい気持ちに寄り添い、一緒に考えたいと思います」

PSW部・リハビリ部長 竹中秀彦

この広報誌を手にとってくださった皆さん、今の悩みは何ですか。病気を一日でも早く治したい。以前の元気な時と同じように暮らしたい。でも、主治医から、今はまだ、ゆっくり休む時と言われていたり、がんばったけど疲れて元気が出ない状態かもしれません。焦らずに一緒にこれからについて考えていきませんか。

今、やりたいことは何ですか？今まで通りに学校に行きたい、バリバリ仕事をして給料をたくさんもらいたい、友達と旅行したい、平凡でもいいから笑顔になれる時間がほしい。そうですね。人はそれぞれ夢や希望があります。でも、病気でなくてもなかなか夢がかなう人は、そんなにたくさんいるわけではないかもしれません。それでも、夢に少しでも近づくために皆さん努力していると思います。

現在通院中で、回復の途中の方や病状が安定している方には、当院にはデイケアというリハビリ活動があります。スポーツやミーティング、手工芸など様々な活動を通して、地域生活や就労などの社会参加のための力をつけていきます。

平成18年10月に施行された障害者自立支援法では、障害者をもっと「働ける社会」と掲げて、働く意欲や能力のある障害者の就労支援として福祉と雇用がネットワークを構成し、障害者の適性に合った就職の斡旋等を行なうとしました。また、雇用政策においても精神障害者への雇用率適応を含め、さらに障害者雇用を進めることになりました。例えば、訓練等給付の中に就労移行支援事業所という2年間の期限を設けて就労するための様々な訓練をするところもありますが、なかなか増えません。また、就労継続支援事業所B型というものがあります。以前は作業所と言っていたのですが、そこでは、仕事の練習や自主製品づくりなどをして工賃ももらえます。そして、就労継続支援事業所A型というものもあります。以前は福祉工場と言っていたのですが、より一般就労に近い働き方をし、賃金ももらえます。



平成25年4月から施行された障害者総合支援法でも、障害者の就労支援は継続されています。そして、同年4月に改正障害者雇用促進法も施行され、障害者の法定雇用率が1.8%から2.0%に引き上げられましたが、企業全体でも達成企業は半数以下で、特に中小企業の取り組みが遅れていると言われています。また、平成23年度の障害者新規求職者数は約15万人で、そのうち精神障害の方は約5万人(約34%)。一方、平成24年6月1日の雇用状況は雇用障害者の約38.2万人のうち精神障害の方は約1.7万人(約4.3%)と精神障害者の雇用がなかなか進んでいないようです。そこで、厚生労働省は精神障害者に対する雇用支援施策として、精神障害者雇用トータルサポーターの配置や精神障害者等のステップアップ雇用奨励金、医療機関との連携によるジョブガイダンス事業など様々な制度を打ち出しました。それらの事業所や制度を利用するためには、精神保健福祉手帳(通称:障害者手帳)を持つことが必要になります。

障害者手帳を持つことや病院に毎日通うことに、まだ抵抗がある方もいらっしゃるかもしれません。それでも、精神科や心療内科の病気は回復に時間がかかることもあります。焦らずに少しずつ一緒に考えてみませんか。もし失敗しても、その失敗を次は成功に結びつくようにやってみませんか。主治医や精神保健福祉士(当院ではPSWと呼んでいます)にご相談ください。どんなことからでも結構です。夢や希望に近づくために、まず、一歩前に進んでみましょう。



病院TOPICS

第10回 京ヶ峰岡田病院地域懇談会

「地域に開かれた病院でありたい」との思いから、地域のみなさまや関係機関からご意見をいただく場として、年に一度地域懇談会を開催しています。今年も3月14日(木)に当院本館2階の会議室にて開催いたしましたのでご報告いたします。



ご出席者(32施設41名 幸田町はじめ近隣市町村)

保健所、市町村役場、市町村社会福祉協議会、医療機関(他科)生活支援センター、就労継続支援B型、地域活動支援センター相談支援事業所、警察署、消防署、家族会、地元区長など

当院の地域生活支援の状況(統計)報告

- ・受診相談の状況
- ・精神科訪問看護指導の状況
- ・インテーク面接(予診)の状況
- ・精神科デイレイトケアの状況
- ・退院後の動向(退院時と3ヵ月後の状況)

各機関・団体の取り組みや要望

参加機関の紹介や日頃の活動状況を報告していただき、また当院に対する連携や質問などもあけていただきました。保健所からは、緊急時の対応や退院後のサポートなどで連携していることなど報告がありました。また、当院が始めたスーパー救急と愛知県精神科病院協会救急医療当番病院体制との優先順位などの確認がありました。家族会は、障害年金受給促進活動の協力をお願いや、ACT(Assertive Community Treatment: 包括的地域生活支援)やひきこもり対策といったアウトリーチの要望などがありました。その他、他科医療機関からは、当院からの内科疾患の受診依頼や転院の状況や当院への受入れ依頼の確認がありました。また、相談支援事業所や地域活動支援センターなどからは、地域移行・定着へのケア会議などの連携の重要性や入院中から行なうことでスムーズに進むなどのご意見がありました。



当院院長 岡田庸男



懇談会の様子

まとめ

今回は各関係機関の方が多数ご出席していただけたこともあり、それぞれの現状を確認しながら連携の大切さを再確認できたと思います。また当院からは地域生活支援の状況を数字だけでなく、昭和時代の精神科医療を状況や想いを院長が語り、当院の取り組みをお伝えすることができたかと思えます。時間の関係で全体会での開催でしたが、サブ会(テーマ別での小グループ)などの事例検討会や意見交換会の要望が多く、次回以降に検討していきたいと思えます。

栄養士から 季節の おすすめ



暖かくなり、景色は美しい桜から自然の息吹を感じる新緑へと変わりつつあります。青く澄んだ空で鯉のぼりが風に泳ぐ姿は何度見ても気持ち良いですね。端午の節句(こどもの日)が近いなあと感じます。この時期になると柏(かしわ)餅やちまきをよく見かけますが、みなさんはどちらを食べる事が多いですか?調べたところ関東では柏餅、関西ではちまきという傾向があるようです。ちまきは団子を茅(ちがや)の葉で包んで蒸した食べ物で邪気を祓うとされています。平安時代に端午の節句が中国から伝来した時、共に伝えられ全国に広がりました。それに対し柏餅は江戸時代に登場した日本特有のもの。上新粉で作った餅にあんをはさみ、柏の葉で二つ折りに包んだ菓子で、柏の木は新芽が出るまで古い葉が落ちないことから「子どもが産まれるまで親は死なない」、すなわち「家系が途絶えない」ので「子孫繁栄」に結びつき、縁起の良い食べ物とされました。さて、あなたはどちらで端午の節句をお祝いしますか?



第93回 院内研修会(第11回 院内研究発表会)

当院の研究発表会もすでに11回を迎え、今では院外で発表する機会も持つようになりました。今回の発表のテーマを簡潔に表現すると、「今後当院に必要と予測される治療または道具の研究・開発」「業務に取り組むために必要な知識の向上と取り組み」、そして「当たり前に生きることを看護する」ということでした。ここで言う「当たり前」とは、人は誰でも常に意欲を持ち続けることはできないということを念頭に、意欲を高める看護も必要であれば、意欲がなくてもみんなと一緒にいられるよう援助する看護も必要であること、そしてその中に一定の「きまり」があれば、何ものにも拘束されない一息入れる世界を提供する看護が必要であるということでした。これらの発表の中で、ご家族の「家族で解決できない問題に取り組むスタッフの姿を見て、任せられると思った」という言葉に、精神科のやりがいを感じるひと時となりました。

総師長 森 澄美江

第1部 (看護部)

1. 自発性へのアプローチ	葵3病棟	濱田 由美子
2. 退院への意識向上を目指してIII	西病棟	源 美穂子
3. 遊びリテーションを導入して	北2病棟	本田 律子
4. プライマリナーシング導入における看護援助改善に向けて	葵2病棟	神谷 清美
5. うつ病患者の退院に向けての援助	葵1病棟	北川 三知代
6. 集団心理を生かした健康体操の効果	南病棟	清水 恵子
7. 「続」カルテ開示を見据えた看護記録の実際	北1病棟	須山 公義

第2部 (コメディカル)

8. 「まずやってみよう!」という大きな一歩	家族心理教育研究グループ	平岩 政子
9. 当院の訪問看護について	訪問看護専門部会	三浦 知加子
10 当院のクリニカルパス	クリニカルパスワーキングチーム	藪内 匠子
11. デイナイトケアセンター「スマイル」について	デイナイトケア専門部会	辻川 幸博



平成25年2月5日(火)
院内京ヶ峰ホールにて

開院75周年記念 新春コンサート

平成25年1月18日(金)
院内京ヶ峰ホールにて



開院75周年記念 室内ゲーム大会

平成25年3月6日(水)
院内京ヶ峰ホールにて



おすすめコーナー

【今号のおすすめ】岡崎出身のロックバンド LAST GASP

インディーズバンドとして8年ほど活動している「LAST GASP(ラストガスブ)」という岡崎出身のロックバンドです。最近「Revolution」というアルバムを出しました。その中の6曲目の「何度も」という曲は、今までとは違って落ち着いた感じの曲です。まだまだ芽は出ないとは思いますが、岡崎出身の子達が頑張っています。できればみなさんも応援してあげてください。

バンドの今後の予定:5月12日(日)、6月15日(土) 岡崎CAM HALLでライブがあります。

※次回の担当は栄養部の畔柳さんです。よろしくお願ひします。

看護部 高山



愛知・岡崎発の平成生まれ新世代ロックバンド!

●編集後記

いつまでも続くように思われた寒い冬も終わりを告げ、今年も桜の開花を迎えました。暖かくなってきたとはいえ、朝夕はまだまだ冷え込みます。何かと変化の多い年度替わりの時期です。体調を崩さないように気をつけていきましょう。

広報委員 小尻